社会貢献活動・環境活動への取り組み

社会貢献活動

富士通グループは、良き企業市民として、地域社会・国際社会との共存共栄を目指し、IT企業の特色を活かした様々な社会貢献活動を実施しています。富士通グループは「サステナビリティ（社会の持続可能な発展）への責任」を果たすため、全てのステークホルダーの皆様の利益に貢献すると共に、富士通グループ自身の成長を実現していきたいと考えています。

2006年3月期における富士通グループの社会貢献活動の一部をご紹介します。

社会貢献活動ハイライト

■ 日米経営科学研究所（JAIMS）の運営

JAIMSは、グローバル社会で活躍できる人材の育成をミッションとして、1972年に当社により設立された非営利教育法人で、これまでに延べ50カ国・2万名以上の参加実績を上げています。参加者は、JAIMSでの教育を通して築き上げた英語力やビジネススキル、およびグローバルなヒューマン・ネットワークを活用し、世界各国でグローバル社会の経済発展に貢献しています。

■ 「数学オリンピック財団」および「情報オリンピック日本委員会」への活動支援

数学オリンピック財団および情報オリンピック日本委員会の活動を支援し、将来の社会の発展を担う貴重な人材の発掘・育成に寄与しています。数学オリンピック財団は、国際数学オリンピックへの日本代表選手の選抜、派遣に関わる事業を展開しています。情報オリンピック日本委員会は、中高生を対象としたプログラミングコンテストである国際情報オリンピックに日本代表選手を派遣する事業を軸に、数理情報科学教育に貢献するための事業を実施しています。

■ 海外植林活動の実施

富士通グループは1997年より、タイ、ベトナム、マレーシアにおいて500ヘクタール、100万本の植林活動を実施してきました。この活動は、富士通グループ社員からの寄付を資金に、社員ボランティアが実際に現地に赴いて植林活動を実施しています。

2005年は11月にマレーシア・サバ州にある「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」でフタバガキの植林活動を実施しました。2006年も同所にて引き続き植林活動を実施する予定です。

日米経営科学研究所（JAIMS）

数学オリンピック

海外植林活動

環境活動

富士通グループは、環境保全への取り組みが重要な経営課題であると認識し、IT企業としてその持てるテクノロジーと創造力を活かし、社会の持続可能な発展に貢献します。また、事業活動に関わる環境法や環境上の規範を遵守するにとどまらず、自主的な環境保全活動に努めます。さらに、豊かな自然を次の世代に残すことができるよう、全ての組織と一人ひとりの行動により先行した取り組みを継続して追求していきます。

2006年3月期における富士通グループの環境活動の一部をご紹介します。

環境活動ハイライト

■ 地球温暖化対策（温室効果ガスの削減）

富士通グループは、事業活動に伴って発生する温室効果ガスの排出量の削減に向け、2011年3月期における目標を設定し、着実に成果を上げています。加えて、モーダルシフトなど製品物流時のCO_2排出量の削減を推進しています。また、独自の評価規定によって環境配慮型製品と認定する「スーパーグリーン製品」の開発や、環境負荷低減効果が高いソフトウェア、ITサービスを認定する「環境貢献ソリューション」の提供を通じて、お客様の省エネルギーや温室効果ガスの削減に貢献しています。

■ 環境配慮型製品の拡充

2005年1月、当社はノートパソコンの大型プラスチック筐体に世界で初めて植物性プラスチックを適用することに成功しました。2006年3月期においては、POSターミナル、ATM、非接触型手のひら静脈認証装置、イメージスキャナなど、様々な製品へと植物性プラスチックの適用範囲を拡大しました。

■ ISO14001グローバル統合認証を取得

近年、欧州を始めとする世界各地で、製品に関する環境規制が強化される傾向にあります。グローバルにビジネスを展開する富士通グループにとって、このような動きへの対応を組み込んだグループ共通の環境マネジメントシステム（EMS）を構築する必要がありました。これに対し富士通グループは、2006年3月に国内の大手電機業界では最大規模となるISO14001グローバル統合認証を取得しました。

会津若松工場においてCO_2排出量を約15%削減

世界で初めて大型筐体部品に植物性プラスチックを採用

ISO14001グローバル統合認証を取得